

平成 22 年
1 月 27 日

病害虫発生予報 2 月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

< 目 次 >

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ：うどんこ病	1
促成キュウリ：褐斑病	1
施設野菜（イチゴ，ピーマン，トマト，キュウリ）：灰色かび病	2

【その他の病害虫】	3
イチゴ・促成ピーマン・促成トマト・促成キュウリ	

・ 病害虫ミニ情報

施設栽培におけるタバココナジラミの防除対策について	4
---------------------------	---

・ 今月の気象予報	6
-----------	---

・ テレホンサービス	6
------------	---

029(226)5321

本文に記載された農薬の登録内容は，平成 22 年 1 月 18 日現在のものです。

農薬登録速報については，農林水産省ホームページ「農薬コーナー」

<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
	やや多い~多い	県下全域

[予報の根拠]

1月下旬現在、発病葉率及び発病果率は平年よりやや高く、発生地点率は高い。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。

罹病部は新たな伝染源となるため、できるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して処分する。

薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で、丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。

ミツバチ導入後は、ミツバチに影響する薬剤もあるので、十分注意する。

薬剤によっては、薬害や果実への汚れを発生するものもあるので、使用にあたっては十分に注意する。

促成キュウリ

1. 褐斑病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

1月下旬現在、発病葉率は平年よりやや高く、発生地点率は平年並である。

気象予報によると、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。

罹病部は新たな伝染源となるため、できるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して処分する。

薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で、丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。

施設野菜（イチゴ、ピーマン、トマト、キュウリ）

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

1月下旬現在，平年並の発生である。

気象予報によると，向こう1か月の降水量は多く，日照時間は少ないと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

ハウス内が多湿になると発生が助長されるので，換気，送風，暖房等によりハウス内の湿度を低く保つ。

発生が多くなると防除が困難になるため，初期防除を徹底する。

罹病部は新たな伝染源となるため，できるだけ取り除き，ハウス外に持ち出して処分する。

薬剤散布は，薬液が乾きにくくなる午後からは行わず，晴れた日の午前中に行う。また，曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は，くん煙剤を利用する。

薬剤は，薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で，丁寧に散布する。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤を散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	コナジラミ類	発生量：やや多い	1月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ハダニ類	発生量：平年並 ～やや多い	1月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや多い	1月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
	アザミウマ類	発生量：やや多い	1月下旬現在，平年よりやや多い発生である。ミナミキイロアザミウマによる被害果も見られるので，発生の少ないうちに防除を行う。
促成トマト	疫病	発生量：やや多い	1月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	タバココナジラミ	発生量：平年並 ～やや多い	1月下旬現在，平年並～やや多い発生である。本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。
促成キュウリ	オンシツコナジラミ	発生量：多い	1月下旬現在，平年より多い発生である。本虫は黄化病を媒介するので注意する。
	ハモグリバエ類	発生量：多い	1月下旬現在，平年より多い発生である。
	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや多い	1月下旬現在，平年並～やや多い発生である。

施設栽培におけるタバココナジラミの防除対策について

近年全国各地でタバココナジラミと、これにより媒介されるウイルス病が問題となっています。茨城県においても、平成 18 年にタバココナジラミバイオタイプ Q とトマト黄化葉巻病、平成 20 年にトルコギキョウ葉巻病、平成 21 年にメロンとキュウリで退緑黄化病が相次いで確認されました。今後、これらタバココナジラミによる被害及び媒介されるウイルス病の発生拡大が懸念されますので、十分注意して防除を行ってください。

タバココナジラミの特徴と被害

成虫や 4 齢幼虫の体長は約 0.8mm で、成虫、幼虫とも葉裏に生息しています。タバココナジラミは性質が大きく異なるグループに分類でき、「バイオタイプ」という名称を使ってグループ分けされています。日本では主に 4 種類のバイオタイプが知られていますが、農作物に被害を与えるのは主にバイオタイプ B と Q です。

バイオタイプ B は、以前シルバーリーフコナジラミと呼ばれていたタバココナジラミです。またバイオタイプ Q は、多くの薬剤に対して抵抗性が発達しており、難防除害虫として各地で問題になっています。県内においてもバイオタイプ Q は広く分布し、バイオタイプ B よりも多く発生しています。どちらのバイオタイプとも成育適温は 25～30 と高温を好み、県内では野外越冬はできないと考えられています。

被害としては、養分の吸汁による生育阻害や排出物によるすす症状の他、トマト等では果実の着色異常も発生します。また各種ウイルス病を媒介するので、大きな問題となっています。

タバココナジラミにより媒介される主なウイルス病と対策

タバココナジラミが媒介する主なウイルス病は下記のものがあります。ウイルスに感染した株は伝染源となりますので早急に取り除き、ビニール袋に入れて密封し、枯死させてから処分する等、適正に処理してください。またウイルスに保毒したタバココナジラミを減少させるため、産地で作物を 1 か月以上作付けしない期間を設定することも効果があります。

ウイルス名	被害を受ける主な作物（病名） 被害の特徴	重要防除時期
トマト黄化葉巻ウイルス (TYLCV)	トマト（トマト黄化葉巻病） 葉の黄化、株の萎縮、着果不良 トルコギキョウ（トルコギキョウ葉巻病） 花の奇形、葉巻き症状、株の萎縮	発生時期が早いほど被害が大きくなるので、生育初期から防除を徹底する。
ウリ類退緑黄化ウイルス (CCYV)	メロン（メロン退緑黄化病） 葉の黄化、果実品質の低下	ウイルス感染 14～30 日後に病徴が現れると推定される。発病による果実品質の低下を防ぐためには、着果 10 日後までの防除が重要である。
	キュウリ（キュウリ退緑黄化病） 葉の黄化、収量の低下	ウイルス感染 14～20 日後に病徴が現れると推定される。発病による収量低下を防ぐためには、収穫終了 50 日前までの防除が重要である。

タバココナジラミの防除対策

前述のように、県内のタバココナジラミは多くの薬剤に対して抵抗性が発達したバイオタイプQが主流になっていると考えられます。そのため薬剤による防除だけでは十分な効果は得られにくいので、物理的防除等も取り入れて、防除にあたってください。

対策	方法
野外から施設内へのタバココナジラミの侵入防止	<ul style="list-style-type: none"> 施設の開口部に防虫ネットを設置する。 (0.8mm目合い以下で効果があるが、十分な効果を得るためには0.4mm目合い以下が必要。防虫ネット設置時には、ハウス内温度が上昇するので、遮光資材や送風ファンの設置等、適正な温度管理に努める) 施設にUVカットフィルムを展張する。 (生育が軟弱になることや、ミツバチの行動に影響を及ぼすことがあるので注意する) 施設の周辺に、光反射マルチを敷設する。
施設内でのタバココナジラミの増加防止	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤によるタバココナジラミの防除を徹底する。 バイオタイプQに効果がある薬剤を使用する(下表参照)。 (定植時または育苗時に粒剤を施用する。また黄色粘着板を利用してタバココナジラミの発生状況を確認し、初期防除に努める) タバココナジラミは葉裏に生息するため、薬剤は下方から吹き上げるように散布するなど、葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。 系統の異なる薬剤によるローテーション散布を行う。 (薬剤抵抗性の発達を防止する)
施設内から野外へのタバココナジラミの飛び出し防止(栽培終了時)	<ul style="list-style-type: none"> 株元を切断しハウスを密閉して、植物体を完全に枯死させる蒸し込みを確実にを行い、タバココナジラミを死滅させる。
野外等におけるタバココナジラミの増加防止	<ul style="list-style-type: none"> ハウス内外の除草を徹底する。 (タバココナジラミは多くの植物に寄生する) 残渣置き場等で自生している野良生え作物があれば、早急に抜き取り処分する。 (タバココナジラミの生息地やウイルスの伝染源になる恐れが高い)

表 タバココナジラミバイオタイプQに効果がある主な薬剤

薬剤名	備考
ベストガード粒剤, ベストガード水溶剤 アルバリン/スタークル粒剤, アルバリン/スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系剤
サンマイトフロアブル	有効成分: ピリダベン
コロマイト乳剤	有効成分: ミルベメクチン
オレート液剤	物理的な作用により効果がある薬剤
ボタニガードES	微生物農薬

農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載された登録作物、使用方法、注意事項や有効成分の使用回数等を確認のうえ使用して下さい。

タバココナジラミは雑草も含め多くの植物に寄生し、春から秋にかけては野外でも生息が可能となります。ハウス外から飛び込んでくるタバココナジラミを減らすためにも、防除は産地全体で取り組むことが重要です。産地全体で防除意識を高め、タバココナジラミの生息密度を減らすように努めてください。

・今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 1月23日から2月22日)

気象庁(1月22日 発表)

< 向こう1か月の気温，降水量，日照時間の各階級の確率(%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	40	40
降水量	関東甲信全域	30	30	40
日照時間	関東甲信全域	40	30	30

[概要]

天気は，平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は，平年並みまたは高い確率ともに40%です。週別の気温は1週目は，高い確立60%です。

< 1週目の予報 > 1月23日(土曜日)から1月29日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率60%

< 2週目の予報 > 1月30日(土曜日)から2月5日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

< 3週目から4週目の予報 > 2月6日(土曜日)から2月19日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率40%

・テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために，病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号：029(226)5321

2月上旬 施設野菜の病害虫対策について

2月下旬 水稲の種子消毒について

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し，適用作物，使用方法，注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には，周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず，良く洗浄しましょう。